

「疾患別検査ガイド 糖尿病2018」を
ご執筆いただいた先生からのメッセージ

みなみ内科ライフケアクリニック 院長
田村 朋子 先生
(糖尿病学会 専門医)



Q

疾患別検査ガイドを作成するにあたって伝えたかったことは何でしょうか？

私が構築に関わった糖尿病の疾患別検査ガイドの中で知ってもらいたかったことは、1型糖尿病・2型糖尿病の鑑別方法や2型糖尿病から1型糖尿病に変わる患者様もいらっしゃる事です。

また、尿試験紙(尿蛋白・ケトン体・尿糖)の検査は、糖尿病の早期発見や機能予後、生命予後の決定因子となるため定期的の実施してもらいたいです。クリニックに来院された患者様の中には半年以上検査をしていない方もいらっしゃいました。

65歳以上の患者様は血糖コントロール目標値が変わり、65歳以上の場合、患者様それぞれの状態を考慮しつつ個別に目標値を設定する必要があります。加齢に伴う腎機能低下により重症低血糖のリスクが高くなることにも十分注意する必要があります。



Q

その他の疾患別検査ガイドは、どのように役立っていますか？

疾患別検査ガイドを読んで、特定の疾患の診断・治療に有効な検査を知ることができました。また、その検査を依頼することで、診断から治療までの流れが今まで以上にスムーズになりました。

私のクリニックには女性の患者様が多く来院されます。女性は月経・出産や生活習慣などの理由から貧血になりやすく、貧血になってしまうとめまいや立ち眩み、疲れやすい、朝起きられないなどの症状が現れます。その結果、日常生活へ支障が出てしまい悩む方が多くいらっしゃいます。

私は今までヘモグロビンの数値で患者様の状態を把握していましたが、貧血の検査ガイドを読んでからフェリチンを測定するようになりました。体内の鉄分の状態をより詳細に把握することができ、鉄欠乏性貧血の診断・治療をスムーズに行えるようになりました。患者様も体調が良くなって朝起きられるようになり、生活の質が上がったなどとお喜びいただいております。



疾患別検査ガイドを ご活用いただいた先生へのインタビュー

近藤内科クリニック 院長
近藤 圭介 先生



Q

疾患別検査ガイドはどのようにご活用いただいていますか？

毎日診ることはない疾患が疑われた時、ファイルからサッと取り出して、ピンポイントに検査に関する事項を確認するのに役立っています。

例えば、開業医をしていると年に何人か甲状腺疾患が疑われる患者様が来院されることがあります。不整脈で、ほてり、動悸がするなどの症状があると、診断のための推奨検査を依頼します。段階を踏んでTSH・FT₄・FT₃・TRAb等を検査し、結果が返って来たとき、「疾患別検査ガイド 甲状腺疾患2016」の甲状腺中毒症の鑑別診断の一覧表で症状の差異や抗体の有無の解釈を確認しています。比較表になっており、非専門医としてはとても使いやすいです。

また、保険のしぼりで不安を抱えて検査を依頼することがありますが、検査間隔についても示されているところがあり、とてもありがたいです。



他の先生方のご意見

- ☞ 疾患と検査のことが頭の中に入るので日常診療に役立つ。
- ☞ 専門外の先生方が見て役に立つガイドでとても良いと思う。
- ☞ 検査の進め方が分かりやすくフローチャートになっているのが良い。
- ☞ カラーで見開きにまとまっているので、分かりやすい。